



農林作物の鳥獣被害が後を絶ちません。狩猟人口減少などの影響により、野生動物の個体数が増加したためだと考えられています。

今月号では、有害鳥獣と日々戦う「白河市鳥獣被害対策実施隊」と、市の対策事業について特集します。

特集

鳥獣被害対策

～農作物を生活を **守る**ため～



分隊長に聞く

今年4月に「白河市鳥獣被害対策実施隊」と名称を改めた市内4分隊。市と隊員との連携を強化するため、市職員も隊員に加わり、より一層の鳥獣捕獲推進を図っています。時に命がけで捕獲活動を行う実施隊の各分隊長に、被害の現状と活動内容などについて聞きました。

経験から得た知識を伝え 捕獲技術向上に努めたい

大信分隊長
まつもと こうきち
松本 広吉さん 隊長歴20年（隊員歴55年）



大信地域では、東日本大震災に伴う原発事故以来、イノシシの目撃や被害がかなり増えました。特に、モチ米やジャガイモ・カボチャの食害が多いです。狩猟期間以外は、2名体制で毎日パトロールをしています。各地に仕掛けたわなを3日おきに見て回ったり、連絡のあった被害者のもとに駆け付け、被害状況の調査や捕獲方法を確認したりします。必要であれば、被害対策のアドバイスもします。イノシシの捕獲では「くくりわな」を使用します。小さな仕掛けを踏むことでワイヤーに足を取られる仕

組みなので、少しでも位置がずれるとわなは作動しません。けもの道はもちろんのこと、イノシシの生態や歩き方・歩幅に至るまで熟知していないと、捕獲することはできません。これまでの経験から得た知識を、研修会などで市内外の方に伝える活動もしています。鳥獣被害対策には、鳥獣の住みかをなくすることが大切です。自宅周りや農地に、餌となる残飯や野菜くずなどを放置しない、農地と山林原野の境界の下刈り除草を行う、電気柵を活用するなど、皆様のご協力をお願いします。

鳥獣被害は増える一方です なんとかしなければ

白河分隊長
わたなべ ただし
渡邊 正さん 隊長歴12年（隊員歴34年）



友人の父から猟銃を譲り受けたのをきっかけに狩猟を始め、隊員になりました。被害に遭った現場を見ると、本当にひどいものです。「1人でも多くの農家さんの役に立ちたい」という思いから、今まで活動してきました。白河地域ではイノシシとハクビシンによる被害が多いため、小田川方面と白坂・旗宿方面に分かれ、週4回2～3人体制で、約120か所に仕掛けたわなの確認を中心にパトロールしています。近年、住宅の庭先でも、家庭菜園の作物やユリの球

根などを狙いにきたイノシシが目撃されています。人的被害につながる恐れもありますので、自己防衛を心掛けてください。菜園周りに紐を張るだけでも効果があります。ぜひお試しください。狩猟人口の減少に伴い、鳥獣個体数は増え続けています。繁殖力も強くなっているため、被害は増える一方です。また、隊員の高齢化が進んでいます。若い世代の方が加わらないと、隊の活動を維持するのが難しくなります。何か対策を打たなければならないと感じています。



隊の存続が心配です 若い世代の方の入隊を

東分隊長
ふかや よしまさ
深谷 吉正さん 隊長歴11年（隊員歴46年）

東地域ではカラスによる被害が最も多く、葉物野菜や果物の食害に限らず、ブロッコリーの苗などを、植えているそばから引っっこ抜いてしまうようなイタズラもします。また、ハクビシンによるトウモロコシの食害や、カモが田植え後の苗を倒す被害も出ています。隊長が被害や目撃情報をもとに市の担当者と打ち合わせ、捕獲許可申請などを行います。隊の活動は、土日早朝5時30分から7時まで行い、隊員はその日の被害状況に応じて、3～4人1組で各捕獲場所に向かいます。しかしカラスの数は年々増えていて、いくら

捕獲しても被害が減らないのが現状です。安全面から、隊員の活動範囲には限りがあります。住宅地や自宅の敷地内などでは、電気柵やわなの設置など、皆さんの自衛による対策をお願いします。隊員の高齢化が進み、隊の存続が心配です。若い方にも関心を持ってもらい、隊に加わってもらえればと思います。また、隊員は地域の役に立ちたいという思いで活動しています。早朝の活動となりご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。 ※わなの設置には、原則的な猟免許取得が必要です。

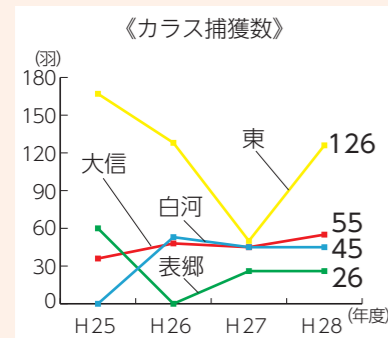


実施隊の活動に対する ご理解をお願いします

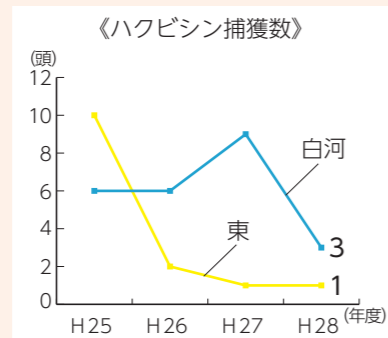
表郷分隊長
おやま さだお
小山 定男さん 隊長歴3年（隊員歴7年）

「鳥獣捕獲は一人でできるものではなく、仲間といかに協力して行うかが大事」だということ、50年の狩猟経験から学びました。隊長として日頃から「隊員の輪」を大切にしています。表郷地域では、社川の南側を中心にイノシシやカラスの被害が多く、食害のほか、イノシシは土手や田畑を荒らしたり、車との接触事故も起きていて、大変危険です。カラスは牛の背中をつついて怪我を負わせたりもします。そのため、隊員は土日を中心に2人1組でパトロールを行い、捕獲活動をします。被害には至

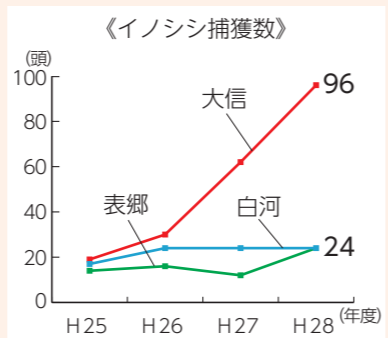
りませんが、シカやサルを目撃情報も寄せられていますので、今後は、それらの生態や活動場所も勉強しなければならぬと感じています。農作物被害を減らすために、有害鳥獣捕獲は欠かせません。実施隊の捕獲活動により、田畑・山林や民家近くでも大きな発砲音が聞こえますが、隊員は必ず矢先を確認して発砲するようにしています。発砲音がすると危険だと感じる方もいるかと思いますが、民家方向には絶対に発砲しませんので、ご安心いただければと思います。



※東地域が多い傾向にある。
※被害報告に基づき捕獲許可を出すため、捕獲実績のない年もある。

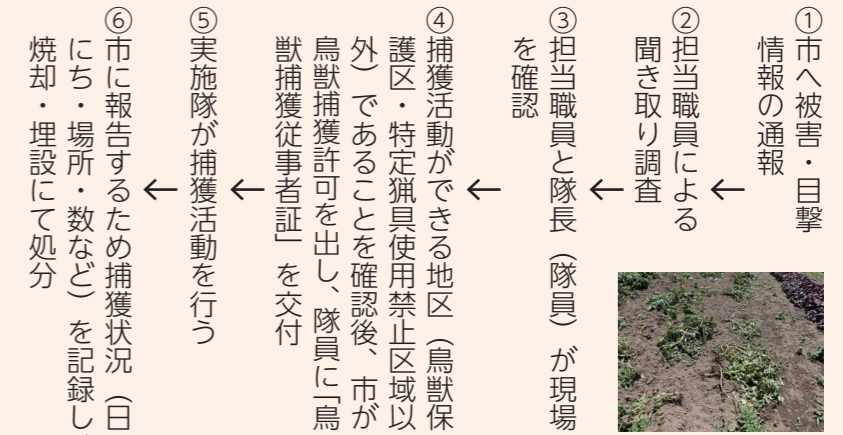


※表郷・大信地域は、H25～H28における捕獲実績なし。



※東地域は、H27に1頭のみ。
※県事業により捕獲した数は含まない。

市の有害鳥獣捕獲による 捕獲数



被害・目撃情報通報から 実施隊の活動の流れ

市の被害対策

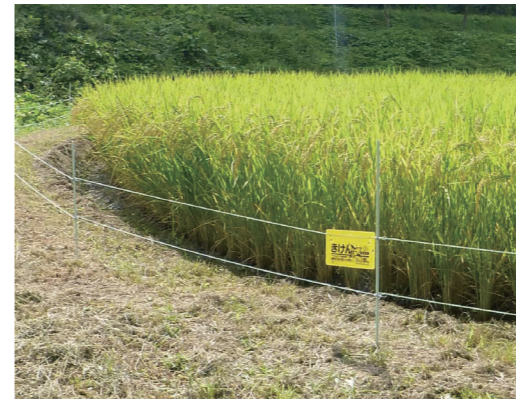
増え続ける鳥獣被害の対策事業として、市では、昨年度から電気柵購入経費の一部助成を行っています。さらに今年度から、狩猟人口の増加を図るため、銃やわななどの狩猟免許取得費用の助成を始めました。

電気柵購入費用の3分の1を助成

実施隊による捕獲活動に加え、被害の多い農地・農業施設などに電気柵を設置することで、被害を抑えることができます。

市では昨年度から、市内の農林作物生産者を対象に、電気柵購入経費の3分の1(上限額は5万円・千円未満切り捨て)を助成し普及に努めています。昨年度は24件、今年度は60件の申請がありました。

なお、今年度の申請受付は終了していますので、助成を希望される方は、来年度以降の申請をお願いします。



▲水田周りに設置した電気柵

狩猟人口増加のため 狩猟免許取得費用を助成

環境省によると、昭和50年に約52万人いた全国の狩猟免許所持者は、平成7年に約25万人と半減し、その後も減少し続け、平成26年には約19万人となりました。県猟友会白河支部の会員数も5年前と比べて2割以上減り、平成28年度は120人でした。この影響で、イノシシなどの野生鳥獣が増加し、農作物などの被害は増加の一途をたどっています。

こうした危機的状況を食い止めるようと、市では今年度から、捕獲の担い手となる人材の確保のため、新たに狩猟免許を取得した方を対象に、その免許取得にかかった費用(講習会受講料・狩猟免許試験申請手数料)の全額助成を開始しました。また、県でも、40歳未満の方を対象とした若手狩猟者確保事業などを行っています。免許取得を検討中の方は、これらの事業をぜひご利用ください。

市では、農林作物の被害対策や、狩猟に関する相談を随時受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

◎本庁舎農林整備課 内2229

— 助成事業活用に聞きました —

いつか隊員として活動したい

■ 狩猟免許取得のきっかけ

義理の叔父の影響です。以前からたびたび叔父の狩猟に同行し、捕獲した野鳥を使った料理を食べたりしていたので、興味がありました。

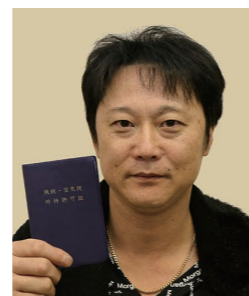
■ 免許を取得して

試験日や会場に限られるため、仕事をしながら免許を取るは大変でしたが、費用面での助成はありがたかったです。また、試験に関する情報が無く不安でしたが、銃砲店の方が詳しく教えてくれたので助かり

ました。この経験から、狩猟に興味を持った方が何から始めたらよいか、何にどれだけ費用と時間がかかるのか、インターネットなどで気軽に調べられると、若い方も始めやすいのではないかと思います。

■ 今後の目標

隊員の高齢化など、実施隊が抱える問題は叔父からも聞いています。いつか私も隊員として地域の役に立てるよう、これから狩猟経験を積んでいきたいと思っています。



第一種狩猟免許取得
仁平 英敏さん

— 助成事業活用に聞きました —

電気柵の効果は大きい

■ 電気柵設置前の被害状況は？

ここ2、3年は特に被害が多く、ジャガイモ・トウモロコシ・米・ユリの球根…。一年中被害に遭っていました。サツマイモの収穫時期には、毎晩のように畑が荒らされたこともありました。

■ 電気柵を設置してみた

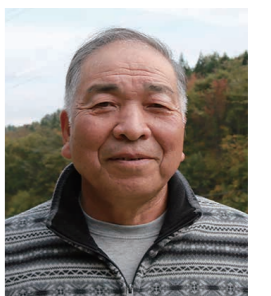
ソバを20アール(約2,000㎡)栽培していますが、イノシシの被害によりほとんど収穫できませんでした。電気柵を設置してから、被害はあり

ません。また、電線を地表近くから張ることにより、ハクビシンやタヌキなどの被害も防げました。

電気柵はとても効果があるので、周りの農家さんも設置を検討しているようです。

■ 市の電気柵購入助成事業について

電気柵はとても高価なので、市がその購入費用の一部を助成してくれるのは、大変助かります。申請方法も分かりやすく、設置を進めるきっかけにもなりました。



電気柵設置
鈴木 茂吉さん

狩猟免許取得から実施隊員になるまで

各講習会や試験は、県内で年に数回開催されます。猟銃所持許可取得までには時間がかかりますので、狩猟免許取得と並行して進める必要があります。また、取得免許や所持猟具の種類によって手続き方法などが異なります。詳しくは、各機関にお問い合わせください。

